

予 算 要 求 資 料

令和6年度当初予算

支出科目 款：衛生費 項：医務費 目：医療整備対策費

事業名 災害医療コーディネータ体制構築事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

健康福祉部 医療整備課 医療整備係 電話番号：058-272-1111(内3238)

E-mail：c11229@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 3,330 千円 (前年度予算額： 2,865 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	2,865	797	0	0	0	0	0	0	2,068
要求額	3,330	797	0	0	0	0	0	0	2,533
決定額	3,330	797	0	0	0	0	0	0	2,533

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

- ・災害医療に関する情報を専門的科学的知見に基づき分析し、DMATや医療救護チームに対して企画・提案等の進言を行い、医療資源の効果的な提供を図る災害医療コーディネーターを平成24年度に設置し、令和3年度に見直しを行った。
- ・令和4年度には、小児・周産期医療に係る保健医療活動の総合調整を適切かつ円滑に行えるよう、災害医療コーディネーターをサポートすることを目的とした災害時小児周産期リエゾンを県の災害医療コーディネータ体制に位置づけた。
- ・大規模災害時に医療が中断・偏在なく効果的に提供されるよう災害医療コーディネーター及び災害時小児周産期リエゾンの連絡会議及び研修を実施する。

(2) 事業内容

- ・災害医療コーディネーターの連絡会議(県本部及び各保健所単位7地域)の実施
- ・災害時小児周産期リエゾンの連絡会議(県本部)
- ・災害医療コーディネーター及び災害時小児周産期リエゾンを対象とした研修会の実施

(3) 県負担・補助率の考え方

災害医療コーディネーターを対象とした研修会の実施については、国庫補助金（医療関係者研修費等補助金）を活用

- ・基準額：797千円
- ・補助率：国10/10

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
旅費	1,008	連絡会議・研修の旅費
報償費	440	連絡会議・研修の報償費
消耗品費	360	連絡会議・研修の消耗品費、会議費
役員費	64	連絡会議・研修の役員費
使用料	20	連絡会議・研修の会場使用料
委託料	1,438	研修会を実施
合計	3,330	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 後年度の財政負担

連絡会議は、災害医療コーディネート体制を発展・維持するうえで必要なものであり、災害医療コーディネーター及び災害時小児周産期リエゾンが存続する限り実施。

研修会は、いつ発生するか分からない実災害で的確に対応するためには、平時からの連携体制の確保や技能維持が必要であることから、災害医療コーディネーター、災害時小児周産期リエゾンその他関係機関が継続的に参加する必要がある。

なお、研修会については、受講者から、大変有意義な研修であり、今後も継続的に実施すべきとの声がある。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

災害医療コーディネーター及び災害時小児周産期リエゾンの連絡会議及び訓練を実施することにより、どの地域で災害が発生しても効果的な医療の提供を行える体制を構築する。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R4年度 実績	R5年度 目標	R6年度 目標	終期目標 (R9)	達成率
① 各保健所等での連絡会議、研修会等の実施件数	0 (H23)	8	8	8	8	100%

○指標を設定することができない場合の理由

--

（これまでの取組内容と成果）

令和 2 年度	<p>災害医療コーディネート研修や災害医療コーディネーター会議等を通じて、災害医療コーディネート制度運用に向けた具体的な取り組みを進めた。</p> <p>指標① 目標：8 実績：8 達成率：100%</p>
令和 3 年度	<p>災害医療コーディネート研修や災害医療コーディネーター会議等を通じて、災害医療コーディネート制度運用に向けた具体的な取り組みを進めた。</p> <p>指標① 目標：8 実績：8 達成率：100%</p>
令和 4 年度	<p>災害医療コーディネート研修や災害医療連絡会議等を通じて、災害医療コーディネート制度運用に向けた具体的な取り組みを進めた。</p> <p>指標① 目標：8 実績：8 達成率：100%</p>

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3:増加している 2:横ばい 1:減少している 0:ほとんどない 	
(評価) 3	厚労省の検討会において、災害医療コーディネート体制整備の必要性が意見されており、今後発生が予想されている大規模地震に備えた体制の整備の必要性は高いと言える。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3:期待以上の成果あり 2:期待どおりの成果あり 1:期待どおりの成果が得られていない 0:ほとんど成果が得られていない 	
(評価) 2	平成24年度に、災害医療コーディネート体制構築に向けた準備会を実施し、コーディネーターの選出を行ったが、平成25年度以降訓練や研修会等の具体的な運用に向けた取り組みを行っている。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2:上がっている 1:横ばい 0:下がっている 	
(評価) 2	平成24年度に体制を構築したところだが、平成25年度以降、具体的な運用に向けた取り組みを行っており、事業の効率性は図られている。

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 各災害拠点病院、県内DMAT、消防機関等の関係者を含めて災害医療コーディネート体制の定期的な運用訓練を実施していく必要がある。
--

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 災害がいつ発生しても機能するよう、今後とも継続的に訓練や研修会を実施し、コーディネート体制の維持・構築を図っていく必要がある。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	
組み合わせる理由 や期待する効果 など	【〇〇課】